



復刊第174号
題字 吉岡 彌生

巻頭言

—中東女性交流プログラムから国際女医会へ—

会長 橋本 葉子

春宵一刻値千金の候、皆様にはご健勝のこととお慶び申しあげます。

イラク問題が解決しない中、昨年より受け入れを進めて参りました第11次中東女性訪問団(ジョルダン・エジプト両国からそれぞれ三名ずつ)が、2003年2月17日〜25日までの予定で来日されました。ここ数年はパレスチナもこの女性交流プログラムに参加しており、今回も人選まで終わっておりましたが、やむを得ない事情で来日されませんでした。

今回は医療関係者が大部分でしたので、討論も医療関係が多いのは当然であります。特に教育問題にも関心が高く、大学婦人協会との連携や、医学部への留学の問題なども討議されました。2月20日にジョルダン代表団にやむを得ない事情が発生し、2月21日の名古屋での公開フォー

ラムの責任を果たしたあと、急遽2月23日に全員帰国の途に着かれました。中東女性との交流もお互いに情報を交換することで、よりよい関係を築きあげることができていることを実感しつつあると思います。交流プログラムに関してははまとめて報告させていただきます。

子育て支援基金の助成を受けて2001年度から始めました「十代の性と健康の支援事業」も順調に進行しております。3月2日に栃木県宇都宮市役所の大会議室において、2002年度二回目になる第3回「十代の性教育」指導者養成講座を開催いたしました。医師(男性も含む)以外にコ・メディカル、養護教諭など一八〇名余の参加者があり、活発な討論も行われました。アンケート結果を見ましても、充実した講

座の開催を期待されている事が明らかになりました。このような講座を地域で開催する重要性を痛感致しました。この事業は三年計画でしたので、2003年度は最終年度になります。地域における啓発活動を含めて三年間の事業の総括をしなければなりませんので、2003年度は全国五カ所での開催を予定しております。また外部有識者を含めた委員会による外部評価を受けた報告書を提出しなければなりません。身を引き締めて一層の努力を致すつもりです。皆さまのお近くで開催しますときは、ご協力をお願い申し上げます。

今年日本女医学会の役員改選に当たります。選挙管理委員の委嘱も終わりました。公平明朗な役員改選が行われると確信しております。新執行部は総会で決定いたしますので、会員多数の総会出席をお願いします。新しい役員誕生と同時にやらなければならぬことは、2004年に開催されます第26回国際女医会議の準備であります。特に学術委員の方々には早急に2nd Circular用のプログラム案を作成していただかなければなりません。会員の皆様にはできるだけ国際女医会議に参加され、親善を図ると同時に、医療問題を始めとする種々の問題に関心をもち、その解決への道をみんなで考えたいと思います。

もくじ

巻頭言

橋本 葉子 (1)

各部報告

庶務部..... 山本 蒔子 (2)

会計部..... 森川由紀子 (2)

学術部..... 内潟 安子 (3)

事業部..... 村田 郁 (3)

渉外部..... 田中 蘭子 (4)

広報部..... 大坪 公子 (5)

第11回日本・中東(ジョルダン・エジプト)女性交流

中東女性訪日団を迎えて..... 橋本 葉子 (7)

「クローズドセッション」を司会して..... 平敷 淳子 (8)

市民公開フォーラムを名古屋で開催して..... 山本 繡子 (9)

中東女性交流見学の一日..... 山本 康子 (10)

「十代の性と健康」指導者養成講座(第3回)

指導者養成講座を終えて..... 山崎 トヨ (11)

ピアカウンセリング手法を用いた性教育の新しい試み..... 高村 寿子 (12)

思春期の月経異常と妊娠について..... 望月 善子 (13)

性感症の現状とその予防..... 安達 知子 (14)

ICTとNGO活動(アンケート調査)

寅が虎に乗る..... 加藤 竺子 (15)

〈支部だより〉 来年の総会を目指して..... 前田 慶子 (17)

音楽の都ウィーンとパリに出かけて..... 加藤 光子 (17)

〈書籍紹介〉「時代を拓いた女性たち」..... 大坪 公子 (18)

* e-mail及びホームページのアドレスが変更のお知らせ..... (5)

* 新医学用語辞典..... (8)

* 平成15年度「児童福祉週間」のお知らせ..... (13)

* 第48回総会のお知らせ..... (15)

* 理事会議事録..... (18)

* 編集後記..... (20)

各部報告

庶務部

山本 蒔子

平成12年度
 ・総会：東京都支部連合会担当で京王プラザホテルにて開催。橋本葉子会長以下新役員決定。
 ・百周年記念事業実行委員会を組織し、活動を開始。
 ・女医の環境整備小委員会は、日本医学会各分科会における、理事、評議員および専門医や認定医における女医の割合を調査し、結果が朝日新聞に掲載される。
 ・第3回ブロック別懇談会開催(仙台)
 ・会員名簿作成。
 平成13年度
 ・総会：佐賀支部担当でホテルニューオータニ佐賀にて開催。
 ・平成13年度社会福祉・医療事業団「子育て支援基金」より、「女性医師による十代の性と健康に関する支援事業」へ助成を受け、ビデオ教材を作成。「十代の性と健康」指導医養成講座第1回を10月28日「女性と仕事の未来館」で開催。
 ・第4回(岡山)、第5回(富山)ブロック別懇談会開催。

・オーストラリア、シドニーで開催された第25回国際女医会議にて、次期開催国に立候補し、東京開催が承認された。
 平成14年度
 ・日本女医学会創立百周年記念式典：皇后陛下のご臨席を賜り、坂口厚生労働大臣、坪井日本医師会長などのご来賓、ご出席のもと5月18日に開催。祝賀会には小泉総理始め各界からのご来賓がご出席、百年の歴史の重みを感じ、ともに祝える喜びを味わう。

翌日には総会を同じく京王プラザホテルにて開催。
 ・第6回ブロック別懇談会開催(米子)
 ・2004年東京で開催される国際女医会議準備のための組織委員会を作る。
 ・「十代の性と健康」指導医養成講座第2回(10月6日、プラザE)と第3回(3月2日、宇都宮市役所大会議場)を開催。
 ・中東女性交流訪問団を受け入れ、会議、病院見学、市民公開講座などで交流。
 平成14年度は、会員の大きな協力により、百周年記念事業を成功させることが出来た。次の課題は平成16年の国際女医会議の開催である。世界の女性医師との交流を目指して、会員のさらなる活動が求められる。

会計部

森川 由紀子

平成12年から大先輩の青井禮子、川田喜代子両理事と一緒させていただいて、会計を担当いたしました。当初は暗中模索の状態でありました。今期は創立百周年の記念事業が近づいて、関連の資金調達をする必要がありました。パブル崩壊後の不況のありで、企業その他からの寄付

も期待できず、橋本会長始め各理事のご努力と会員の協力により、パソコン講習会、コンサート、観劇会等の収益を当てさせていただきました。が、何よりの原動力は会員諸姉のご寄付に因るところでありました。お陰さまで14年5月、皇后陛下の行啓を仰ぎ、各界名士のご臨席をい

学術部

内潟 安子

ただいて、盛大に挙行されました記念式典を始めとして、予定されておりました記念事業が着実に進められておりますことを、会計一同心から感謝いたしております。

百周年を一区切りとして、さらに存在意義を高め発展して行く日本女医学会のことを考えますと、……先立つは資金……が現実です。

しかも、昨今の社会状況の下で、資産運用などは論外であり、従って会員の先生方から納入されます会費が頼みの綱となっておりますのが現状です。

幸い皆様方のご協力によりまして、会費の納入率は上昇し、数年前の78%→平成12年度85%→13年度87%と上昇しておりますが、会員数の伸び悩み等により入金総額は僅かな伸びに止まっております。今後、会費の問題だけでなく、会の活性化のためにも、会員増強に向けてのお力添えをお願いしたいと思います。

各部の先生方には事業推進の上で、貴重な財源がより有効に活用されますようご協力をお願いいたします。平成16年には国際女医会議が東京で開催されることが決まっております。山崎倫子先生のご厚志により、国際女医会基金の口座もできております。お願いばかりで恐縮ですが、会員の先生方には引き続きご支援の程、伏してお願ひ申し上げます。

学術部は橋本葉子会長のもと、澤口彰子、山本織子、内潟安子のメンバーで平成12年4月から平成15年3月まで学術部を担当いたしました。この間に、メルボルン大学神経科 Demerstein 教授による「中年における人生の満足と幸福」、NIT東日本関東病院早乙女智子先生による「リプロダクティブ・ヘルスと経口避妊薬」、日本医師会総合政策研究機構の前田由美子委員による「医療保険の現状について」、科学警察研究所の高取健彦所長による「地下鉄サリン事件と法医学」、東京女子医科大学巴ひかる先生による「青少年の性感染症」、厚生労働省医政局宮寄雅則先生による「青少年の健康支援」、東京都多摩老人医療センター井藤英喜所長による「高齢者糖尿病

の管理と視点を問い直す」、愛知医科大学佐藤秩子先生による「細胞の老化・死と個体の老化・疾病・死についての基本的理解のために」の六回の学術講演会を開催しました。多岐にわたる専門分野以外の最新のお話を充分にお聞きすることが盛会裡にできました。

吉岡弥生賞、学術研究助成も従来通りに執り行いました。本年度はまだですが、この二年間に大澤真木子、大原一枝、関根みよ各先生が吉岡弥生賞を、榎本京子、大西礼子、小野昌美、田辺晶代、永野千代子、藤井美穂各先生が学術研究助成を受けられました。2004年に日本で国際女医会議が開催されます。学術部も事業部その他の部の理事の方々とともに、準備段階に入っております。

事業部

村田 郁

平成12年度～14年度まで三年間の事業部の事業を述べます。事業部は次の①～③の事業を継続しながら来ております。

①公開講演会(全国公募)の援助
 ◇平成12年度
 ・高知県女医会六十周年記念および四国女医会二十周年記念市民公開講

新発売



注射用ニューキノロン系抗菌剤
 指定医薬品・要指示医薬品
パシル® 点滴静注液 300mg / 500mg
 PASIL® メシル酸/ズフロキサシン (略号 PZFX)
 注) 要指示医薬品：注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

※ 効能又は効果、用法及び用量、禁忌を含む使用上の注意等は添付文書をご参照ください。

販売元 [資料請求先]
大正富山医薬品株式会社
 〒170-8635 東京都豊島区高田3-25-1

製造元
富山化学工業株式会社
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-2-5

2003年2月作成

信頼あふれるメルク・ホエイのプロダクト

- 高品質で安定供給の製品群
- リーズナブルな価格の製品群
- 幅広いジャンルをカバーした豊富な製品群

を病院・開業医に提供しています。



- ジェネリック製品
- 消毒関連製品
- 局方関連商品
- 麻酔関連商品
- 輸液関連商品

MERCK メルク・ホエイ株式会社

〒541-0053 大阪市中央区本町2-6-8
 Tel.06-6252-6720 Fax.06-6252-6740

日本女医学会誌を年四回(1月、4月、7月、10月)発行しています。この会誌を読めば、日本女医学会の活動が正しくわかるように編集してまいりました。

理事のメンバーは、松井ひろみ、山崎康子、大坪公子の三名です。一回の会誌を発行するためには、編集会議(割り付け会議)と校正会議が必要で、これらの会のほとんどは、橋本葉子会長がご出席くださり、いろいろとアドバイスをいただいております。たいへんありがたいことだと感謝しています。

本部事務局で原稿集め、広告のと

広報部

努力しなければならぬと思っております。近年医療はより複雑となり、臨床の現場では日々心忙しく過しているため多くの機会を逃して力およばず申し訳なく思っています。

1996年に始まった中東女性交流については、今年が女医学会の担当で名古屋での公開講座「母子と健康」は愛知県支部の皆さま、また中心となって企画された山本織子先生にすっかりお世話になり、病院施設見学や女医学会主催の東京シテイクラブでの歓迎会では、橋本会長始め理事の

大坪 公子

先生方のご協力をいただき、渉外部としては、誠に申し訳なくありがたく思っております。

また2月の同時期に、日中平和友好条約締結二十五周年記念として中国女性代表団を迎えて、日中女性の集いが、三木睦子氏を委員長として複数の女性団体により実行されました。このような国際的な行事がこれからはますます多くなると思いますが、語学力に欠ける私など心細い限りで、若い行動力のある方々の参加、ご協力を切に希望しております。

りまとめ、その他すべての用意をしてきています。金剛出版の淵ささんが、影の力として支えてくれていました。

「日本女医学会百年史」を百周年記念事業の一環として、刊行できたことは、この上ない喜びです。わかりやすく、おもしろく、しかも「資料性」「記録性」が高く、本格的な「正史」を作ることを編集方針としました。

e-mail : office@jmwa.or.jp
ホームページ: http://www.jmwa.or.jp

*従来のアドレスは引き続き使用できなくなりますが、ご注意ください。

「年表」と「解説」をセットにして、読みやすくしました。皆さまに気に入っていただけたでしょうか。編集委員は、橋本葉子会長と歴代の広報部員の中から稲生 襄、中濱昌子、野澤良美、佐々木和子、村田 郁、と現在の広報部員の三名があたりました。昔の写真なども、たくさん入れることができよかったですと思っております。どうぞご活用ください。

会誌171号は、百周年記念式典、祝賀会の特集号にしました。紙質もよいものを使用し、写真がとくに美しくたくさん入り、2002年5月18日の百周年記念行事の雰囲気がよく伝わり、よかったですと自慢に思っています。また式典にご出席いただいたすべての人に、JMS (Japan medical society) 2002年8月号、日本女医学会創立百周年、特集号と皇陛下のおことば、お姿が、はつきりと撮っているビデオをお送りすることができたことを、とてもうれしく思っています。

今後も日本女医学会誌は読みやすく、活動内容がよくわかり、しかも格調高く品位のある女医学会の広報誌でありたいと願っています。

演会
講師・平敷淳子先生(埼玉医大放射線教授・日本女医会理事)
「体の中をのぞいてみましょう」
市民の方にコンピュータを使用しきれいな人体画像をわかりやすく解説・講演、盛況。

・北海道支部 公開講座
「十代のころと性・子どもとの心がええますか」
講師・須藤桃代(北海道衛生学院教授)、対馬ルリ子(都立墨東病院周産期センター医長)、杉浦浩一(中学教師)、香山リカ(精神科医) 各先生
少年犯罪、援助交際、性感染症の増加に対し、各分野から熱心な討論が行われた。

◇平成13年度
・埼玉支部 公開講演会
「十代の性行動の実態課題」
講師・対馬ルリ子先生
若い女性のリプロダクティブヘルスライツを守るために、会場満杯、熱気あふれる会。

・宮城支部 公開講演会
「女性の健康、女性の医学」
講師・堂本暁子・千葉県知事
一貫して女性問題、健康を扱っている講師の講演。女性医師による女性相談室を千葉県ですべてに開設、仙台も開設準備中とのこと。

・百周年記念事業 公開講演会
1「体の中をのぞいてみましょう」

講師・平敷淳子先生
2「春光会フラウエルコール」中野支部コーラス
3「アンサンブル華の会」埼玉支部コーラス
4「ボニージャックス」演奏会
盛況でなにより、収益は百周年記念への資金
◇平成14年度
・百周年記念式典・祝賀会
5月18日 京王プラザホテル
②荻野吟子賞、地域功労賞の決定と授与
◇荻野吟子賞・平成12年度
・中澤由美先生(京都支部)
平成13年度(該当者なし)
平成14年度
・安藤まさ子先生(埼玉支部)
・稲葉美佐子先生(千葉支部)
・亀崎善江先生(新田原聖母病院)
◇地域功労賞・平成14年度
・吉武 幸先生(荒川支部)
◇百周年記念特別功労賞
・今野信子先生(新宿支部)
③地域医療奉仕活動への助成

渉外部

21世紀にはいつて三年目の春を迎え、渉外部はNGO各種団体との関係はいままでもなく、他の方面へも

平成12年度 地域功労賞
・佐藤秩子先生(愛知支部)
「婦人と子供の健康を相談する会」を三十五年間継続
④社会保険新報社への原稿協力
「いきいき」に健康記事掲載
⑤講習会等の事業実施
⑥バザー、親睦活動による事業
⑦ホームページの更新と活用
⑧人材バンクデータベースの運用
⑨雑誌「ゆうゆう糖尿病」発行
⑩社会福祉・医療事業団「子育て支援基金」より継続事業として助成を受け「十代の性と健康」指導者養成講座の企画、開催。三年継続事業として、平成13年第1回・15年第3回まで、講習参加証を発行
⑪厚生労働省「健やか親子21推進協議会」の協力団体として活動
⑫支部助成Ⅱ各年度会費納入者一名につき二百円助成
⑬その他
年々事業が増えていきます。ぜひ会員皆さまのご協力をお願い申し上げます。

田中 蘭子

WAKODO 薬価基準収載

抗ウイルス化学療法剤
グロスパール® 顆粒40%
GROSPARL Granules 40%
(アシクロビル顆粒)

指定医薬品、要指示医薬品・注意・医師等の処方せん・指示により使用すること



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照下さい。

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご覧ください。

販売元 **和光堂株式会社** 〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-14-3
製造元 **高田製薬株式会社** 〒101-0054 東京都台東区鳥越2-13-10

新発売



いま、実現。

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照下さい。

指定医薬品 要指示医薬品(注意・医師等の処方せん・指示により使用すること)
持続性選択H₁受容体拮抗・アレルギー性疾患治療剤 薬価基準収載

クラリチン®錠 10mg
ロラタジン Claritin® Tablets 10mg

発売元 **シオノギ製薬**
大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045
[資料請求先] 塩野義製薬株式会社 製品情報部 クラリチン係

製造元 **ジェリング・プラウ株式会社**
〒541-0046 大阪市中央区平野町2-3-7

2003.2月作成 ©:登録商標



国立成育医療センターにて

今回のテーマは「母子と医療活動」でしたので、京王プラザホテルにおける

国連NGO国内婦人委員会が窓口になって行われております中東・日本女性交流事業も、今回の訪日で11回を数えることになりました。

会長 橋本 葉子

中東女性訪日団を迎えて

第11回日本・中東(シヨルダン・エジプト)女性交流

ました。2002年度の受け入れ担当団体は日本女医学会になっておりまして、六名の代表のうち五名は医療関係者でした。

2月20日の夜、シヨルダン代表団の一人が予定を早めて帰国しなければならぬことがわかり、2月21日の名古屋での公開フォーラムは予定通り行い、翌日帰京、23日全員帰国という慌ただしいスケジュールになってしまいました。

表敬訪問の中で皇太子妃雅子様にお会いでき、可愛い愛子様にもお会いできましたことは、訪日団のこの上ない喜びと名譽であったようです。

closed sessionも、名古屋国際会議場における公開フォーラムも主に医療問題が討論の主役になりました。

また、訪日団の希望も入れて、施設見学は、国立成育医療センターと東京女子医科大学を選びました。

Advertisement for Norvasc (Lisinopril) by Pfizer. Features a large image of the product box and a stylized sun/moon graphic. Text includes '第三世代カルシウム拮抗薬' and 'Life is our life's work'.

Advertisement for Norvasc 2.5mg and 5mg capsules. Includes the Pfizer logo and contact information for the marketing department.



MICARDIS TELMISARTAN GOOD MORNING, MICARDIS.

- 禁忌(次の患者には投与しないこと) (1)本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 (2)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人...

効能・効果 高血圧症 用法・用量 通常、成人にはテルミサルタンとして40mgを1日1回経口投与する。

- 使用上の注意(抜粋) 1.慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1)両側性腎動脈狭窄のある患者又は片腎で腎動脈狭窄のある患者...

使用は避けること。また、腎機能障害、コントロール不良の糖尿病等により血清カリウム値が高くなりやすい患者では、高カリウム血症が発現するおそれがあるため、血清カリウム値に注意すること。

胆汁排泄型持続性AT1受容体ブロッカー (テルミサルタン製剤) ミカルディス® 20mg カプセル40mg

新発売 眠気 13/593例(2.2%)等であった。(1)重大な副作用 次のような副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

発売元 山之内製薬株式会社 製造元 日本ペーリンガー・インゲルハイム株式会社 資料請求先:学術情報部

中東女性交流

「クローズドセッション」を司会して

理事 平敷 淳子

クローズドセッションは「母子と健康」をテーマに各国おひとりずつのご発表をお願いした。当日は京王プラザホテル・コニカ(株)・埼玉医科大学放射線医学教室の協力と人的・物的な支援をえて、最新のIT技術をもって対応できるよう準備を整えた。発表者も、それぞれの代表者の発表原稿を夜おそくまで手直しするという気合いの入れ方であり、私はホテルのビジネスセンターの開始と同時にコンピュータの前に座り、発表の準備をともにした。

会は国連NGO国内婦人委員会を代表して平松昌子様から、クローズドセッションが日本女医学会主導で行われる旨お話があり、私は司会者として紹介された。女医学会からは発表者橋本葉子会長、加藤三子副会長と山本壽子、角田由美子各理事、野澤良美監事が他のNGO団体の方々とともに参加された。

会場は広く、のびのびと広がったコの字型のテーブルを囲み、自由な雰囲気の中でおこなえた。公用語は

英語とし、英語→日本語、日本語→英語は平敷が時々サマリーをまとめ通訳し、外務省がお願いして下さったアラビア語の通訳の方には日本語

↓アラビア語の通訳をお願いするという華やかな国際会議となった。まず、ヨルダン代表である女性総連盟のアナス・サケット会長はしっかりとしたデータをもとに産婦の死亡が産一〇万人にたいして一五〇人。その死亡原因は出血、敗血症や肺栓塞であるとのべられた。乳児と五歳以下の幼児死亡率は、それぞれ一〇〇〇人にたいして二七と三三であることを述べられた。母子と健康のための施設の設立、医療従事者の

訪日団日程概要

- 2月17日(月) 15:45 成田空港到着 19:00 京王プラザホテルチェックイン 19:30 ホテル発→椿山荘 20:00~22:00 夕食
●2月18日(火) 10:00~ プリーフィング 外務省仮庁舎7階レストラン 11:30~ 昼食(帝国ホテルバイキング) 14:00~ 厚生労働省表敬訪問 篠崎医政局長と面談 16:00~16:35 皇太子妃雅子様表敬訪問 16:40~17:30 銀座ミキモト見学 19:00~ 外務省新藤政務官主催の歓迎夕食会 京王プラザホテル47F ムーンライト
●2月19日(水) 10:00~ Closed session(母子と医療) 京王プラザホテル47F あおぞら 13:00~ 昼食・意見交換 京王プラザホテル47F あさひ 15:30 ホテル発→歌舞伎座 18:00 歌舞伎座発→エジプト大使館 歌舞伎座発→京王プラザホテル→ジョルダン大使招待夕食 新宿「ル・アラダン」
●2月20日(木) 9:20 ホテル発 10:00~12:20 国立成育医療センター見学 12:30~13:20 昼食 世田谷美術館内レストラン 15:30~17:30 東京女子医科大学見学 医学教育問題について討論 17:40 東京女子医大発→ホテル 19:00 ホテル発→東京シビッククラブ 19:30~21:30 日本女医学会主催歓迎夕食会
●2月21日(金) 8:45 ホテル発→東京駅 9:53 のぞみ9号→名古屋 11:33 名古屋着→ホテルマリオット チェックイン 各自昼食 13:50 ホテル発→名古屋国際会議場 14:30~17:00 公開フォーラム(母子と健康) 18:30~ 懇親会(夕食) 国際会議場内レストラン
●2月22日(土) 7:50 ホテル発→名古屋駅 8:20 のぞみ44号名古屋発 10:00 東京駅着 10:00 東京駅着 20:00~ 別れ夕食会 京王プラザホテル44F アンブローシア
●2月23日(日) 10:00 ホテル発→成田空港 13:30 成田発→帰国の途へ

新医学用語豆辞典

ピアカウンセリング

(仲間相談活動)

性教育はこれまで、一方的に大人が知識を教える「押し付け型」が多かった。これに対し、「ピア」といわれる仲間と対話することで、自分の性行動や将来について自己決定する力をつけることを目指す活動が「ピアカウンセリング」。「ピア」は、同世代のカウンセラーである大学生や高校生など。現在ピアカウンセリング専門の施設である「ピアルーム」を開設している県もある。オープンスペースで数人が語り合うという形式をとるが、電話やインターネットの相談にも応じる。性教育の新しい手法であり、効果が大きい期待されるこの方法は、いま全国的なネットワーク作りも進んでいる。

(文責・山崎トヨ)

教育、妊婦のための啓蒙プログラム作りなど、バスマ王女をトップに真剣に進められておられる事が、美しくまとめられていた。つづいて、エジプトからは現職のカイロ大学医学部長のマディーハ・カタールから五歳以下の幼児死亡率は1960年代の四人に一人から2001年の二人に一人にいたる統計的なデータが示された。産婦の破傷風による死亡を防ぐため、ワクチンの接種をおこなっている旨の報告もあった。橋本

再び活潑な討論が繰り広げられた。ヨルダン・エジプト側からは薬物中毒の現況につき質問がなされ、薬物については江尻NGO会長から中学生の麻薬中毒につき、たばこについては山本理事から二十歳代の喫煙率が20%になっていることも含め、小学校高学年から喫煙防止教育がなさ

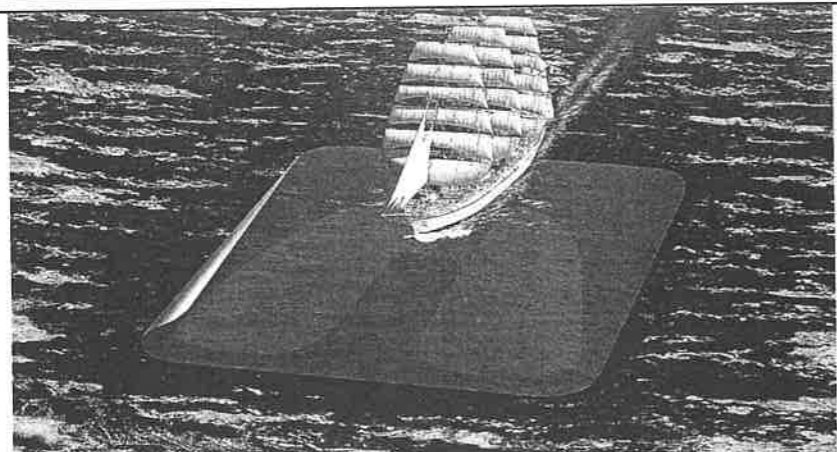
れていることをコメントしてください。多分野の関係者の参画の下、たのしい二時間三十分の会は、部屋を改めてのビュッフェ昼食の後、散会となった。

中東女性交流プログラム・市民公開フォーラム 「母子と健康」を名古屋で開催して

理事 山本 續子

市民公開フォーラムは、2003年2月21日に名古屋国際会議場で開催され、参加者は、訪問団六名を含め八一名でした。多くの参加者を募ってご協力いただいたのは国際ゾントラッククラブ、日本産業カウンセラー協会、BPW、女医学会愛知支部、愛知県女性総合センター、国際ソロ

フォーラムの会次第は以下の通りです。 一、主催者挨拶 国連NGO国内婦人委員会会長 江尻美穂子 二、講演 座長・有吉允子(名古屋第一赤十字病院周産期医療センター長) 山本續子(藤田保健衛生大学学術経内科教員) ①働く女性の育児と職業上の諸問題(山本續子) 藤田保健衛生大学学術経内科教員



Tape 経皮吸収型・気管支拡張剤 薬価基準収載 0.5mg 1mg 2mg Hokunalin (ツロブテロール貼付剤) 指定医薬品・要指示医薬品

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等につきましては、製品添付文書をご参照下さい。

製造発売元 アボット ジャパン株式会社

資料請求先:くすり相談室 〒540-0001 大阪市中央区城見2-2-53 TEL (06) 6942-2065

2003年2月作成

② Maternal and Childhood Health Care in Egypt. (Dr. Nadia Badrawi, Director of Medical Education and Development Center, Prof. of Pediatrics/Neonatology of Cairo University)

③ Femal Health in Jordan. (Dr. Najwa Khuri-Bulos, Chairperson of Jordan Board of Infectious Disease and Prof. of Pediatrics and Infectious Diseases of Jordan University)

④ Approaches and Advancements in Reproductive health & Family Planning in the Hashemite Kingdom of Jordan. (H. E. Dr. Rowaida Al-Maaita, Minister of Social Development)

⑤ Health Promotion of Young Egyptian Women Using Behavioral Changes Towards Better of Life. (Dr. Omaira M. Abou-Shady, Prof. of Parasitology & Tropical Medicine, President of Egypt Medical Women's Association)

⑥ 愛知県における周産期医療の現状(有吉允子=名古屋第一赤十字病院周産期医療センター長)

逐次通訳したので時間的な余裕がなく、活発な討論を考慮しておりましたができませんでした。
橋本葉子日本女医学会会長の閉会の

挨拶で、この会が日本中東女性交流に大いに意義があったこと、各方面からのご参加、ご協力に感謝の意を述べられ、加えてご後援をいただいた名古屋市長、および名古屋教育委員会にお礼の言葉がありました。
フォーラム中は時間がなく討論はできませんでしたが、会終了後にコーヒータイムを準備してありましたので、二三名ほどが集まり、ジョルダンのメンバーお手持ちのクッキーと当方で準備したマドレーヌ、バウムクーヘンをいただきながら話に花が咲きました。
後援をいただきました松原武久名古屋市長を表敬訪問することが急遽決まり、市長が会場にある貴賓室まで出向いて下さり、そこで訪問団および日本側の十数名と親しくお話しすることができました。訪問団を代表してマディーハ・マフムド・ハッターブ・カイロ大学医学部長が今回のフォーラムが成功裡にできて本当によかったこと、日本のすばらしいもてなしに感謝していること、そして情勢の緊迫した今、世界の平和を願っていること、そして市長からの2005年に開催される愛知の世界万国博へのお誘いにもぜひ参加したいとの意を表されました。
また名古屋市教育委員会の加藤教育長、大野教育次長さんからはお祝いの電報をいただき、ありがたくお

受けいたしました。
本来ならば翌日は、名古屋観光を計画しておりましたが、急遽、予定を変更して、二日早く帰国されることになりましたので、この後、同じ会場にある展望レストランでのディナーが名古屋における唯一の楽しみとなりました。食事は、ありきたりのものでしたが、家庭的な雰囲気、宗教上食する事の出来ないものは、あらかじめ避けていたでいていましたが、嫌いなものも急遽、別の献立を工夫して下さい、ありがたいことでした。楽しい団契が続く、場を離れたい雰囲気でしたが、明朝は早立出なので記念写真を撮って9時

中東女性交流見学の一日

— 国立成育医療センターと東京女子医大 —

国立成育医療センターおよび東京女子医科大学が今回の中東女性訪問団が東京で見学した二施設でした。
小雨の降る肌寒いこの季節は、暑く乾いた国からの訪問者にはどのような感じられたでしょうか。
京王プラザホテルより日本女医学会会長橋本葉子、副会長石原幸子、理事平敷淳子、同山崎トヨ、同山崎康

理事 山崎 康子

子と六名の来訪者、NGO代表の数名はバスにてまず国立成育医療センターへ到着。
デイズニールランドを思わせる色彩豊かな院内、小児の日常生活を維持しながら治療を行う状況、CT・MRIの検査もカラフル・ポップな色と形で全く恐怖感をあたえない場になっていました。無菌のシステムも

徹底してました。デスクにも角がなく、子供がぶつかっても危険が少ない工夫、エレベーターにも妊産婦さんがちよっとお尻をおろして楽な姿勢がとれるようになど。また廊下には可愛い電車が置いてあるなど、かつて病院の持つイメージを徹底的に払拭したセンターに日本の持つ最新のハイテク技術の素晴らしさを充分に見学いたしました。
次に東京女子医大に移りましたがバスの道中は混雑して見学の方たちはかなり疲労の様子が感じられました。NGOの方たちは途中で下車、訪問団六名と女医会五名が女子医大へ。学長・数名の教授に歓迎され、ここでは主として医学教育をテーマに活発な討論がなされました。そのあとで産婦人科の病棟や出産室の見学もありました。
私の母校ではありますが、超最新の成育医療センターの見学のあとでは、施設については大分、分が悪いと思いい、残念でした。大学側でロゴマーク入りのそれぞれカラーの違うシルクのスカーフがお土産として訪問団の一人一人に手渡されました。早速肩にかけたり、首に巻いたり、とても喜んでいらっしゃいました。女子医大のスタッフの優しさがとてもうれしく思えました。

「健やか親子21」関連事業 「十代の性と健康」 指導者養成講座

— みんなで考えよう性と生 —

主催：社団法人 日本女医学会
共催：宇都宮市

第3回「十代の性と健康」

指導者養成講座を終えて

理事 山崎 トヨ

一昨年、昨年に引き続き、第3回は地方都市では初めて、栃木県の宇都宮市役所で宇都宮市と共に開催しました。受講対象者も医師のみでなく、教諭、養護教諭、保健師、助産師とし、全国の医師五〇名を含め、総数一八六名でした。

橋本会長、宇都宮市助役の挨拶に続き、講演に入りました。六名の講師の先生方はどなたも「十代の性と健康」に関しての熱心な専門家であり、講演にいらした。多くの受講者が各先生方の特色ある密度の濃い内容に目をさまされ、感動し、子供のためには何かをせざるはならぬようになったのではないのでしょうか。フロアからは、学校関係者、行政関係者、第一線の臨床医からもたくさんの質疑が

あり、盛り上がりしました。教育の現場や家庭・地域において、学校医や養護教諭が性教育にもっと力を出せる手がかかりになれたかと思えます。
当日のアンケートは二二四名より回答があり、回収率は66・6%でした。十一項目の質問に対し、貴重なご意見、感想をたくさんいただきました。今、十代の子供たちの性の活性化、低年齢化等の問題の解決に必要なものは、全回答者が家庭教育、学校教育、社会教育としていました。必要な教育内容は、人権尊重、科学的知識、性病の恐ろしさでした。性教育は幼児期から親子一緒にするべきで、学校医や養護教諭がもっと積極的に関わるべきとの反応が強く、女性医師が地域での性教育の支援を

することに二二〇名の受講者が賛意を表していました。

今回の講座で、今の十代の性の実態の認識と科学的知識の大切さ、ピアカウンセリング手法(8頁・新医学用語辞典参照)、クラミジアなどの性感染症の恐ろしい現状と予防や性的自己管理の大切さ、月経や妊娠とそれに関わる疾患、「自分のいのち」の神秘的なはじまりと性交、いのちの尊さなど、もりだくさんの学習ができました。性教育に慣れていない、あるいは正しい性教育を受けていない人たちに、おおいに役立つことと思います。

県内で子どもに対する意識が高まっているなか、十代少女の人口妊娠中絶の割合が、全国ワースト2の本県で、第3回目を開催できましたことは、まことに意義深いものであったと思います。地元マスコミの関心もおおきく、写真入りで報道され、一般の人々への啓発にも役立ちましたと思えます。また、伝統ある日本女医学会の組織力もさることながら、

プログラム

開会の挨拶 日本女医学会会長 橋本 葉子
宇都宮市助役 竹原 卓郎

「今十代のころとからだに何かおこっているのか」 総合司会 対馬ルリ子

「ピアカウンセリング手法を用いた性教育の新しい試み」 虎ノ門病院・産婦人科・思春期外来 堀口 雅子
自治医科大学看護学部教授 高村 寿子

質疑応答 コーディネーター ウィミンス・ウェルネス代表 対馬ルリ子

「わたしとあなたの大げなこと」日本女医学会制作ビデオ紹介 日本女医学会副会長 加藤 笠子

「小学校での性の授業の実際」いのちのはじまり」 東京都大田区立池上小学校教諭 庄子 晶子

「思春期女性の月経異常」妊娠について」 獨協医科大学産婦人科講師 望月 善子

「性感染症の現状とその予防」 東京女子医科大学産婦人科助教授 安達 知子

質疑応答 コーディネーター ウィミンス・ウェルネス代表 対馬ルリ子
日本女医学会副会長 加藤 笠子

閉会の挨拶 行政とともに取り組むことにより、このたびの開催にあたり、たいへんお世話になりました関係各位に心から感謝申し上げます。

ピアカウンセリング手法を用いた性教育の新しい試み

自治医科大学看護学部
高村 寿子

思春期のヘルスプロモーションの新戦略

厚生労働省は21世紀の母子保健の取り組みの方向性を提示し、2010年までの目標を設定し、関係者、関係機関・団体が一体となって推進する国民運動計画「健やか親子21」を提唱した。その四本柱の一つに思春期の保健対策の強化と健康教育の推進が掲げられ、その推進策の基本理念にヘルスプロモーションがおかれた。具体的な取り組みとして、思春期の健康と性問題のアプローチに質的な転換を図ることが提言され、その中に同世代の仲間による取り組みのみの有効性と推進が明記されている。まさに思春期のヘルスプロモーションである。

思春期の若者一人ひとりに、その人なりの人生の坂道があり、その坂道のゴールに豊かな人生(QOL)がある。そのゴールを目指して坂を登るのは、彼ら自身の自己決定能力にほかならない。その力が最大限に発揮できるように環境づくりが、私

たち大人そして専門家に課せられた役割である。

「私は16日に保健福祉センターにピアカウンセリングを受けに行った。はじめはグループをつくり、心理テストみたいなのをやったり自分の人生設計を語るなど皆で楽しくやった。そして題の「せい」のことへ移った。このピアカウンセリングを受けるまで「せい」について軽い気持ちしかなかったが、このピアカウンセリングを受けた後には「せい」に対する気持ちが変わった。印象に残ったのはやはりHIV(AIDS)のこととSTDのことかな。僕は今までになかった知識を得られたと実感している。それと避妊についての練習は皆驚いていた。その中でも「ピル」については時間がながくとられ、熱心に聞き入ってしまった。自治看護学生のピアカウンセラーの話はわかりやすく、とても楽しくあきること

がなかった。次回もまた行きたい。それと関西弁のピアカウンセラーは

神戸出身で最後に話してくれた友人の話はすごく感動した。僕は「せい(性)」は人にとつての「せい(生)」なのかと思った。」

平成12年12月「未来は今の恋人」と題して開催されたピア・カウンセリング終了後の、ある男子高校生の感想である。今の自分をたいせつにすることが未来の自分をたいせつにすることになるんだと、阪神大震災の自らの体験を通して、生命の重さを語りかけるピアカウンセラーからのメッセージに共感し、認識を新たにした感動が伝わってくるであろう。具体的展開のために関連領域の連携の重要性

親でもない、教師でもない、思春期の若者にとつて、最も身近に信頼できる存在であり、同世代に生きる価値観を共感・共有する「仲間」というキーパーソンが行うピアカウンセリング、訳して仲間カウンセリングを活用した種々の方法は、WHOを始め国際的レベルで思春期の人の自己決定による主体的な行動変容を支えるために非常に有効な方法であると高い評価を得ている。

若者たちが主役である本手法が全国各地で広く実践されるために、彼らを支える環境要因としての地域保健・学校保健や社会教育・医療機関など関連機関が、縦割り行政発想を転換して柔軟に連携していくことが

急務であることを提起し、紙面の関係上、具体的な実践展開を紹介できないことをお詫びして稿を閉じる。

文献
松本清一監修、高村寿子編著・性の自己決定能力を育てるピアカウンセリング P 87 小学館 1999

思春期の月経異常と妊娠について

獨協医科大学産婦人科

望月 善子

大学病院の思春期外来という枠の中で、週一回、十代の女子の診療にたずさわっている。大学病院だからなのか、いわゆる性のトラブルで受診する若者は少なく、そのほとんどが月経不順や無月経、月経困難症といった月経に関わるトラブルに心痛し、養護の先生や母親に受診を促されて、やっとの思いで産婦人科の高い敷居をまたいでやってくる者、あるいは何らかの先天的な疾患のために小児科や内科から紹介されて受診する者である。どちらにしてもその緊張感がひしひしと伝わってくるので、まずはリラックスできるように対応を心がけている。どの年代であっても、初めての産婦人科受診がトラウマとなつて、何か問題が起こったとき産婦人科受診をためらうことのないようにするのが、最低限の産婦人科医の役目だと考える。また、思春期の月経異常は、性機能の発達

途上で生じるという点で、性成熟期のそれと決定的に異なる。さらに身体的・精神的にも未熟であり、その心理背景をも確実に理解することが重要である。治療の主体はホルモン剤による薬物治療になるが、患者さんの年齢や合併症の有無などにより、症例の個別化が要求される。

無月経の原因として特筆すべきことは減食による体重減少である。飽食の時代に不健康な食生活をし、不健康なやせかたをしている人が増えている。特に、必要以上にやせを賛美するメディアの影響もあり、若い女性のやせ願望は顕著になるばかりで、急増する摂食障害の一因となっている。摂食障害を含めて、長期的無月経の状態は、将来的には骨粗鬆症をひきおこす。治療には、本人、家族への十分な説明と家族を含めた支援者の協力が不可欠である。

若年妊娠に関しては、その90%以上が地域の開業医を受診するというデータが示すとおり、大学病院を初診する妊婦はきわめて少ない。昨年、当科で対応した十代妊婦は三件であり、その中、母体搬送入院は九例、ハイリスク妊婦外来紹介入院は三例、何らかの内科の合併症を有していた者は五例であった(2002年度・総分娩数八〇七件・母体搬送症例数一八六件)。高校生であるという理由で人工妊娠中絶術を施行したものは、初期一例、中期二例であった。当科は県の総合周産期センターを兼ねている関係上、いわゆるリスクの高い妊娠を取り扱う割合が大きい。一般的には妊娠に対する若年であることのデメリットは医学的な問題よりも、むしろ社会的な背景にある。実際、妊産婦死亡率・周産期死亡率といった保健水準の指標統計の上からは十代妊娠のリスクを読み取ることはできない。

十代の妊娠は概して予期せぬ望まない妊娠が多い。母親が十代の出生数はここ数年横ばいであるが、十代の人工妊娠中絶実施率は増加しており、特に栃木県は全国レベルと比較してもワースト一・二位を示す不名誉な結果になっている。経済的な自立が無く、祝福されない環境のもとでの妊娠は精神的ストレスも大きい。基本的には家族に相談するのがベストなのだが、家庭内に相談者を持つ

平成15年度「児童福祉週間」のお知らせ

厚生労働省では毎年5月5日より一週間を「児童福祉週間」と定めて、この期間中に広く関係機関・団体の協力により、全国各地で児童福祉の推進のための各種の啓発事業および行事が展開されております。

ついでには、この啓発活動についてより多くの理解と協力をお願いいたします。

平成15年度「児童福祉週間」概要

- 一、趣旨：国および地方公共団体、家族、福祉関係機関、児童福祉施設、地域社会等社会全体が一体となって、各種の啓発事業および行事を展開することにより、児童福祉の理念の一層の周知と児童問題に対する社会的関心の喚起を図るものである。
- 二、主旨：厚生労働省、(社)全国社会福祉協議会、(財)ことも未来財団
- 三、標語：みんなでささえる 小さな命
みんなで育てる 大きな未来
(公募により選定された作品)
- 四、期間：平成15年5月5日(月)より5月11日(日)までの一週間

厚生労働省

ない場合、相談体制の整備といった社会的支援が重要である。家族等の支援があり出産可能な場合でも、彼らがまだ教育を受けている途上であるという事実をどう解決するか問題である。また、未婚で出産し、一人

親で育児をしていかなければならぬ場合、母子家庭の生活・育児・経済上の悩みに応じ、自立に向けて支援していく行政上の問題もある。

性感染症の現状とその予防

東京女子医科大学産婦人科

安達 知子

「健やか親子21」は、21世紀初頭の母子保健の到達目標を示したものであるが、リプロダクティブヘルス・ライツはその中心のテーマである。

ことも約半数のものが肯定している(1999年)。しかし、これに対応する性教育、思春期教育は充分とはいえない。さらに人工妊娠中絶数は減少しているにも関わらず、十代の中絶数は増加している。

また、エイズ/HIV感染も本邦では確実に増加している。HIV感染は一回の性交渉での感染は0.3%といわれているが、クラミジアをはじめとする性感染症があると感染しやすい素地をつくりだしている。

性教育の考えから性感染症予防上もっとも大切なことは、思春期以降の性的自己管理ができることである。

①性感染症はどのようなかを理解する
性感染症はごく一般人の人に感染しうる。従来の性病と異なり、性風俗関係などの特殊な人たちが罹患する疾患ではない。性感染症に対し、偏見を持たないようにする。一度でも性交経験があるならば、または一人

特にクラミジアは、クラリスロマイシン系、エリスロマイシン系などの特異な抗生剤や化学療法剤で治療するが、通常の細菌とことなり、四五日の治療では不十分である。最低二週間の薬物治療、場合により、四週間の治療をおこなう。

未婚女性も含めて避妊法の80%以上は男性用コンドーム使用というのが本邦の特徴である。一方、人工妊娠中絶した女性たちへの調査で、その妊娠したときにも60%が避妊を実行しており、過半数は男性用コンドームを使用していたとの結果がある。

トナーを含めた徹底的な治療とフォローアップは必要である。

②男性、女性用コンドームの正しい使用方法を実施する
正しい使用方法でなければ性感染症は予防できない。オーラルセックスでも感染する可能性はある。性交を持たないことも確かな予防法である。コンドームがない、または、正しい使用ができる自信がなければ、性交は持たないとする判断とこれを実行する意思は大きな予防法といえる。

③性交経験者は、年一〜二回の性感染症のチェックを行う。
特にクラミジア感染症のチェックはたいせつであるが、局所の検体採取がいやであるならば、血液検査でクラミジア抗体の検査をおこないスクリーニングするのも一つのアイデアである。ここで、抗体が陽性であれば、女性は産婦人科で子宮頸管内膜からの、男性は泌尿器科で朝の初回尿からのクラミジア抗原の検査をおこなうとよい。

④徹底した治療

IC-UNZGO活動

—(社)大学婦人協会のアンケート調査より—

日本女医会と同様、国連NGO国内婦人委員会のメンバーの一つである(社)大学婦人協会が「ICIT社会への第一歩であるパソコンの利用状況」のアンケートを実施した。その報告書が送付されたので、簡単に紹介したいと思う。

2002年度版「男女共同参画白書」による男女共同参画社会の形成状況をみると、政策・方針決定過程への女性の参画は長期的には拡大傾向である。しかし、国連開発計画による人間開発指数(平均寿命、教育の普及率、一人当たりの所得をベースに各国の人間開発の度合いを指数化したもの)は一七四カ国中九位だが、ジェンダー・エンパワメント指数(女性が指示的、経済的に積極的に社会参加ができるかどうかを示す指数)は前年(四二位)より改善されたとはいえ六四カ国中三二位にす

ぎない。また、就業面においても女性の働き方としてのM字カーブは依然として残り、男性の家事・育児参加時間も先進国一三カ国中最も少なく0.3時間程度しかない。このような現代日本社会の状況のもと、女性問題に取り組む民間女性団体の果たす役割はますます重要なものとなっている。今後さらに連帯を深め活動を充実する必要がある。21世紀の民間女性団体にとって知識を集約し情報収集力や発言力をつけて機動性を高め、より効果的な活動の場や機会をさらに広げるためには、ICITの活用は必須である。

パソコンの利用状況を同協会の本部、支部を含む一五六の女性団体に郵便により依頼、2002年7月16日〜8月21日に七八通の有効回答があり回収率は50%であった。

対象団体は一〇、〇〇〇人以上が一団体(14.4%)、一、〇〇一〜一〇、〇〇〇人が一三団体で16.6%、三〇一〜一、〇〇〇人が一三団体(16.7%)、三〇〇人以下が三三団体(42.3%)。六十代以上の会員が最も多い団体は56.4%を占め、活動年数二十年を越える団体が73.1%となっている。パソコン利用状況として七八団体中事務所で所有しているのは三七団体(47.4%)、所有していない四一団体内、個人所有二八団体(68.3%)。利用していない団体一三団体(16.7%)。台数としては有効回答三一中、一台が七団体(22.6%)、二〜五台が一四団体(45.2%)。六台以上十団体(32.3%)。インターネットには三六団体内三五団体(97.2%)が接続している。

文書の作成保存、各種事務処理、情報発信、ボランティアや会員募集、募金、出版販売、会議用資料の配布、メールによる内部通信、オンライン

者では、男女の罹患者の割合は接近している。性感染症は自分の身体ばかりでなく、産道を通して、あるいは経胎盤や母乳により、次世代へ感染する可能性があることも、留意すべき重要な点である。

性教育の考えから性感染症予防上もっとも大切なことは、思春期以降の性的自己管理ができることである。

①性感染症はどのようなかを理解する
性感染症はごく一般人の人に感染しうる。従来の性病と異なり、性風俗関係などの特殊な人たちが罹患する疾患ではない。性感染症に対し、偏見を持たないようにする。一度でも性交経験があるならば、または一人

第48回定時総会のお知らせ

総会まであと一カ月足らずとなりました。先生方にはますますお元気で活躍のこととお慶び申し上げます。すでにお申し込みいただいておりますが、第48回定時総会を左記の日程で開催致します。

日時 平成15年5月17日(土)
場所 京王プラザホテル 4階「花」
〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1 (電話 03-3344-0111)
評議員会 午前10時〜11時30分
総会 午後12時30分〜午後3時30分 (選挙も含む) 登録費:三,〇〇〇円
講演会 午後4時〜午後5時 「雅楽の歴史」(皇室の継承する伝統文化) 宮内庁式部官 木村 雅有様
懇親会 午後5時30分〜午後7時30分 47階「あけぼの」 会費:一〇,〇〇〇円

東京都支部連合会による行事

同じく4階「花」に、お茶席をご用意いたします。おいしいお菓子とお抹茶でお疲れをいやしてください。皆さまのおいでをお待ち申し上げます。

*京王プラザホテル宿泊ご希望の方は日本女医会事務局までご連絡くださいませ。(TEL:03-3498-0571 FAX:03-3498-8769) 社団法人日本女医会/東京都支部連合会

会議として活用し、その結果として人件費、通信費、宣伝費等の諸経費を削減し、会の活動の活性化が図られているが、大多数の民間女性団体の活性化にはつながっていない。その利用の仕方が「事務処理」が中心で、「ICT革命」とは程遠いためである。その理由として第一に個人所有が少ない、第二に女性団体の高齢化が挙げられる。

政府は2001年3月「e-Japan重点計画」を定め、すべての国民がICTのメリットを享受できるユビキタスを国家戦略として目指すことになっている。「情報リテラシーの向上については、高齢者や障害者も含め全ての国民がICTの知識や技術を身に付け、その恩恵を享受できるための教育および学習の振興が図られるよう、必要な環境を整備するとともに関連する制度の見直しを行う」と謳っている。その具体的方策として、小中高校等公立学校での情報リテラシー教育の充実を目指した施策がいろいろ挙げられているが、特に高齢者に配慮した施策はほとんどないに等しい。低料金で、充分時間をかけられる高齢者対象講習会を小中学校の空き教室等利用可能なあらゆる公共施設、さらに民間の協力も得て、強力に推し進めるべきである。また、ハードの面での高齢者対策として、使いやすいパソコンの開発が

望まれる。多機能をやめ、簡単に操作できる高齢者対応機種の開発を関係方面に要望したい。

寅が虎に乗る

副会長

加藤 竺子

昨年12月ごろ、NHKが中国の景勝、漓江下りの特別番組を連続で放送したことがありました。数時間にわたる船旅、両岸に展開される高低さまざまな独特の山々が迫っては消え、また別の景色が目前にせまり、まさに南画の世界に身をおいて、悠々の時に浸る……見ていた夫が「中国の自然は雄大ななあ」と、ふと漏らしました。ちょうど正月休みに今年はどこに行こうかと、思案中だったので、これ幸いと、旅行社に



問い合わせ、年末年始の特別旅行を予約しました。桂林に旅行された方も多いと思いますが、私自身はかつて日中関係の仕事に携わったこともあり、桂林、漓江下りは二度経験していました。行くたびに感動して、帰って写真を見せながら家族に伝えても、やっぱり「百聞は一見に如かず」というか、見ずして感動を共感する難しさは否めませんでした。今回は珍しく夫が重い腰を上げて、

「行って見よう」と言っし、良い機会と、親友のご夫妻をお誘いして、年末の29日に福岡国際空港から中国の旅に出発しました。桂林、広州は中国でも南なので、冬でも暖かいと思っただけでしたが、ちょうど福岡と同じくらいの寒さでした。メインは漓江下り、桂林と広州の観光なので、老夫婦の旅には適当で予想以上に見応えのあるとても楽しい旅行でした。

可愛いパンダが今日はごきげんで、日向ぼっこをしており、写真をぱっちり、次のコーナーは、一五〇キロもありそうな大きな虎が網の囲いの中にゆったりと横たわっていました。大勢の観客が網越しに見ており、一人の調教師が木刀をもって虎の近くにいました。虎の入り口でなにがしか払えば虎の背に乗ることが出来るというガイドの話に思わず私は手を挙げて、おっかなびっくり大きな虎の背にまたがって、写真を撮るつらつら！この記念写真となりました。ふかふかした虎の毛並み、大きな息遣い。あたたかなぬくもりの感触がまだ私の両のすねに残っている思っています。

桂林からは芦笛岩(ろてきがん)の鍾乳洞は、現在世界遺産に申請中とか、そのスケールのおおきさ、五億年かけてつくられた大自然の芸術宮殿といわれる見事なものでした。絵葉書でよく見る象鼻山、岩石博物館や少数民族の資料をあつめた桂林博

に技術の習得、向上にはげみ、目的達成に向け努力するべきではないだろうか。

支部だより

来年の総会を目指して

青森支部長

前田 慶子

全国女医学会の皆さまお元気でご活躍のこと存じます。北の国青森ではもう3月だというのに、まだ雪が降っております。

昨年は皇后陛下御臨席のもとに盛大にそして華やかに百周年記念式典が行われ、感激致しましたが、役員の方には大変ご苦勞様でした。その際発刊された日本女医学会百年史に当支部は昭和32年発足時会員二十数名と記載してありますが、四十九名の間違いでありますので、皆様にご訂正くださるようお願い致します。現在当支部は協力を合わせて八十数名でそれぞれの分野で活躍しております。公的には県の健康福祉部長、弘大医学部看護学科教授も協力会員でありますし、金田八重子先生は八戸医師会理事をなさり、不肖私も弘前医師会副会長を致しております。先日青森県医師会長と懇談の機会がありました。これからは女性を起用していく方針だとのことですので、

ますます会員の活躍の場が広がることを期待しております。日医の代議員は三三二名おりますが女性の名は見当らず、僅かに常任理事一四名中青井先生、柳田先生のお二人が活躍され、石原副会長が国民生活安全対策委員会の委員をなさっているのが心救われる思いです。男尊女卑が当り前の時代で苦勞した私たちの若い時とは違って、現在は能力さえあれば女性歓迎の良い時代ですので若い皆さん大いにがんばってください。

さて、青森支部は来年の総会の当番を目指して張りきっておりますが、頭痛の種は同年の7月28日から8月1日まで国際女医学会が東京でありますので、青森の総会に出席する方が少ないのではないかとこの事です。一人でも参加される方が多いようにととも交通の便が良い青森市を会場とし、楽しい実のある会にしたいと講演も女性の関心あるような演題を選び、前夜祭、懇親会の

NGOもICTを駆使して問題発生に即座に対応し、他団体と連携を取りながら、問題解決に努めれば、

成果をあげることが出来るであろう。ICTはこれからの時代に活躍するNGO必須のツールである。たがい

に技術の習得、向上にはげみ、目的達成に向け努力するべきではないだろうか。

アトラクションも工夫を凝らし、皆様に喜んで頂けるようにと皆で知恵を絞っております。しかも青森県は十和田湖を控え、奥入瀬渓流の残雪、新緑、三内丸山遺跡、弘前公園、花のりんご園、また仏ヶ浦、恐山など観光にも事欠きません。当県ならではのエキスカッションもいろいろ予定

しております。さらに特筆すべきは人情のよさであり、そのうへ海の幸、山の幸にも恵まれております。どうぞ皆さま来年の日本女医学会総会には多数ご参加くださるとともに喜び楽しんでいただきたく、支部会員一同心からお願ひして、簡単なながら青森支部のご挨拶といたします。

音楽の都ウィーンとパリに出かけて

荒川支部

加藤 光子

2002年12月29日私は杖を片手に念願のウィーンへと不安と期待を抱きながら家を出発しました。10月頃より左膝変形性関節症が悪化し、杖なしでは歩行が困難となっていたからです。

2002年12月29日私は杖を片手に念願のウィーンへと不安と期待を抱きながら家を出発しました。10月頃より左膝変形性関節症が悪化し、杖なしでは歩行が困難となっていたからです。

出発間際まで旅行に行くか迷いましたが、「この機会を逃すと次はなにかも出来ない」と思いきって、出かけることにしました。成田空港で今回の旅行仲間八名と合流、いよいよウィーンへと出発です。私の脚は十三時間余りのフライトに耐えられないのだろうかと不安を抱え、乗り換えのため降り立ったパリ空港で私を迎えてくれたのは車椅子でした。「どうぞ」と言われて感激し、車椅子の人となり、ただただ感謝で涙が

滲みしました。ウィーンのグランドホテルに到着したのは同じ29日午後10時頃でした。私は、脚の事も忘れてベッドに横になり、むさぼるように眠りにつきました。

12月30日、午前中はホテルでゆっくりと過ごし、午後はウィーン市内観光に出かけました。シェーンブルン宮殿、王宮、中央墓地、楽聖たちの墓碑などを見学、遠い昔の優雅な生活を垣間見るようでした。夕食はオーストリアを代表する貴族の館「パレ・シュワルツェンベルグ」のレッドサロンでした。残念ながらもぜひかお腹が一杯で、食事の内容を覚えていませんでした。今日は歩くことが多かったためか、私の膝関節は少し腫脹が目立ち、痛みも増してしまいました。明日からの事がちょっと心配……。

12月31日、午前中は楽聖の足跡を散策。パスクアラテイハウス(ペーラーベンの家)、ヨハン・シュトラウスの家、そしてモーツァルトのフィガロハウス等を地下鉄に乗って見学。夜に備えて私は、早々にホテルに戻り、脚を休めました。午後6時半、ドレスアップをしてホテル玄関に集合、いよいよジルベスターコンサートに出発です。聞くところによれば、ウィーンフィルが、12月30日、31日と新年1月1日に全く同じ内容でコンサートを行います。大晦日の夜に行うジルベスターコンサートこそ、知る人ぞ知るコンサートなのだそうです。コンサート会場は世界三大ホールの一つで、「黄金ホール」とも呼ばれる金箔の楽友協会ホールです。緊張しながら席(正面に向かって左側の二階席の前方)に着き、黄金色のシャンテアを眺め、天井に描かれた美しい絵に魅了されると、さあコンサートの始まりです。指揮者はニコラウス・アーノンクール氏。ウィーンフィル八十余名の楽士たち一人一人が、ひたすらヨハン・シュトラウスの名曲を次々と演奏して下さり、私はただただ、全身を耳にして陶酔しました。鳴り止まぬ拍手の響きに、ふと我に返った私は、あの長いフライトの辛さも、膝の痛みも

忘れて、黄金ホールの聴衆と共に燃え上がる心のときめきを抑えませんでした。何度かのアンコールに備えて、指揮者は快く次々と私たちの聞きなれた名曲を演奏され、最後にロディッキ一行進曲を聴衆と共に手拍子を指導しながら楽しんで下さいました。

来年もこのコンサートを聴きに、ウィーンに来ましようと思は友と手を取り合っていました。さて、その夜はガラディナーに加わり、心ゆくまで往く年を楽しく過ごして2002年とお別れしました。

2003年1月1日、午前中、ウィーンの森散策。バーデン市のベートーヴェン第九の家等を見学。Kropf's Mayringにある二週間前にリニューアルしたばかりのレストランで昼食。名前は忘れてしまいました。このスープがとってもおいしく、小食の私も平らげてしまいました。夜はホテル内の日本料理店「雲海」で懐かしいおせち料理を堪能しました。午後6時半、国立ウィーンオペラ座にてオペレッタ「こうもり」を鑑賞。楽しいおしゃべりに、昔勉強したドイツ語の響きを思い出しながら、すっかりオペレッタに引き込まれていました。

1月2日、パリに移動。パリオペラ座「バステイーユ」で新作バレエ「シルヴィア」を鑑賞。私はバレエといえば「白馬の湖」というように

古典的なものを想像していましたが、とてもスピーディーでアツと驚くような踊りと物語で、すっかり魅了されてしまいました。

1月3日、今日は終日フリーでしたが、私はすっかり膝関節が腫脹してしまつて、あまりあちこち歩く事ができなくなっていました。せっかくパリまで来てショッピングをしないのはもったいないと思ひ、行きたいところへ二、三カ所を車で回り、後はおとなしくホテルで休んでいました。

1月4日、午前中にオルセー美術館を見学。すばらしい芸術の世界に浸りました。見学中に窓の外を見る

と雪が降り始めていました。日本に帰るために午後7時過ぎにホテルを出発しましたが、大雪のため道路は渋滞、空港も滑走路が凍結し、なかなか飛行機が飛ばませんでした。ようやく帰路につけたのは時刻より三時間半も遅れていました。寒さのため、足の痛みも増強し、重い脚を引きずりながら、我が家に帰り着いたのは真夜中でした。

不安を抱きながらの旅行でしたが、あのコンサートの感激はわすれることができません。やっぱり行って良かったと思える感動的な音楽芸術鑑賞のウィーン・パリ八日間の旅でした。

山崎倫子先生は1919年3月29日滋賀県長浜市に生まれました。東京女子医専を卒業しました。85年から94年まで日本女医会会長となり、国連の政府代表代理なども務められました。曾祖父は勝海舟。東京都武蔵野市名誉市民であります。

山崎先生は語学が堪能で英語、フランス語ばかりでなく、ロシア語、

読売新聞の解説面でも2001年4月から2002年3月まで連載された「時代を開いた女性たち」のうち十一人の女性の半世紀を収録した本です。この中で、日本女医会名誉会長、山崎倫子先生がとりあげられています。日本女医会の活動についてもくわしく触れられておりますので、山崎倫子先生の半生を紹介いたします。

『時代を開いた女性たち(第二集)』

ドキュメント

世田谷支部 大坪 公子

読売新聞の解説面でも2001年4月から2002年3月まで連載された「時代を開いた女性たち」のうち十一人の女性の半世紀を収録した本です。この中で、日本女医会名誉会長、山崎倫子先生がとりあげられています。日本女医会の活動についてもくわしく触れられておりますので、山崎倫子先生の半生を紹介いたします。

ドイツ語、ヘブライ語まで学ばれました。敗戦後の満州では、日本人難民救済のために働かれました。

日本女医会では、社団法人格の取得、大阪での万国博覧会で無料診療活動、つくば科学万博での診療活動、阪神大震災では避難場所に向向いての医療活動などがあります。また、1976年東京で開かれた、国際女医会議の事務総長、93年に京都で開かれた国際女医会西太平洋地域会議の会長など、「日本女医会ここにあり」と世間に胸を張ることができた仕事をなさいました。日本女医会から国会議員を出したいという希望を持っておられます。

生涯現役をこれからも続けていかれることでしょうか。

そのほかの登場人物は、メイ牛山(美容家)、田辺聖子(作家)、橋田壽賀子(脚本家)、森 英恵(ファッションデザイナー)、鍛冶千鶴子(弁護士)、牧阿佐美(舞踊家)、山本富士子(女優)、大河原愛子(ジェーシー・フーズネット会長)、増井光子(獣医師)、岡崎恒子(分子生物学者)です。

この本を読むと元気がわいてきます。どの人も、立ちぶさがる「厚い壁」を強い意志で乗り越え、新たな地平を切り開いていったからです。人生の最後の最後まで、前向きな姿勢を学びたいと思います。

ご購入のご希望の方は事務局にご連絡ください。(中公新書ラクレ71 中央公論新社 価格七二〇円)

理事会議事録

日時：平成14年11月16日(土) 午後3時より

場所：日本女医会会議室

出席者：橋本、内潟、大坪、澤口、清水、角田、平敷、久田、松井、村田、森川、山崎(康)、山崎(ト)、野澤 (以上15名)

欠席者：石原、加藤、橋川、青井、川田、鹿田、田中、丸茂、山本(織)、山本(時)、松本 (以上11名)

10月理事会議事録を承認

報告事項

一、庶務報告 清水理事 別紙どおり報告、承認される。

二、会計報告 森川理事 平成14年10月分収支別紙どおり報告、承認される。

三、各部報告

・11月10日米子で開催した第6回ブロック別懇談会の報告が清水理事、平敷理事よりあった。非会員ばかりで質問が前もって出され、それに回答する方法で行われた。大成功裡に終了し、既に三名の新入会員がある。

【広報部】 山崎(康)理事

ジッパー付き、色はブルー系、外ポケット付きでサンプルの作成を依頼する。

二、中東女性交流受け入れの件

・第11回「中東女性交流」日程「#3」を参考に検討する。現在の所エジプトのみ来日メンバー決定(カイロ大学医学部長、カイロ大学医学教育開発センター長、エジプト女医会会長)。ジョルダンには社会開発大臣が候補に挙がっている。パレスチナの来日は未定。

・2/18(火)：外務省主催の歓迎会 2/19(水)：Closed session は角田理事、山本(時)が出席。

2/20(木)：病院・医療施設見学は国立成育医療センター及び東京女子医大を予定。女医会主催の歓迎会を「小笠原伯爵邸」に打診。

21日(金)・22日(土)：名古屋での講演会と伊勢志摩への旅行について山本(織)理事より説明。橋本会長より愛知支部の支援の要請をする。詳細は担当者に一任する。

23日(日)：帰京の途中掛川下車。掛川城、吉岡彌生記念館、東京女子医大東キャンパスを見学。

24日(月)：フリー・タイム

25日(火)：帰国

・会誌173号の原稿を募集中。

【松井理事より】

・11月1日開催された総理府男女共同参画局「団体行動と男女共同参画を語る会」出席の報告。

【橋本会長より】

・11月15日に行われた「社会・福祉医療事業団ヒアリング」と「市川房枝記念会創立40周年の集い」の報告。

【角田理事より】

・12月5日開催される内閣府男女共同参画局主催「平成14年度男女共同参画グローバル政策対話」へ出席の要請。

協議事項

一、セクハラカウンセラー養成講座準備委員会委員の推薦について

・ザ・アールより「(仮称)セクハラ・カウンセラー制度創設企画書」に基づき説明があった。内容に関する質問も多くあった。とりあえず立ち上げのための準備委員会のメンバー(産婦人科・内科・精神科)の選出を橋本会長に一任する。

二、国際女医会議の進捗状況・鹿田理事に国内外の招待者リストの作成を依頼。

・11時開始からランチョン・ビュッフェまで、皇族方に御臨席を願う。

・今野先生(新宿支部)より一〇〇万円の寄付があった。

・MWIA会長等とプログラムに関するe-mail委員会を開催予定。

・来年1月15日に京王プラザホテルとの第一回目の交渉予定。

・1st circularを各医科大学、看護大学、看護短期大学に発送する。

・アトラクションは滝本恭史氏より快諾を得た。

三、選挙の件

宮城支部長・小田泰子先生からの提案に対し検討する。会長・理事の任期、半数交代、定年制の導入等を含めさらに検討し、来年度の総会議題として提出する。

四、中東女性交流の件

来月2月17日・25日の中東女性交流一行のスケジュールを資料にもとづき平敷理事が説明。理事の協力を要請。

五、吉岡弥生賞・荻野吟子賞の件

現在のところ吉岡弥生賞に推薦が一名ある。他への推薦も要請。

六、その他

・忘年会、新年会について：12月21日理事会開催日に忘年会を開催。

・Webサイトによる相談事業」の人選について：

荒木葉子、齋藤加代子、早乙女智子、対馬ルリ子、堀口雅子、吉田恵子各先生に依頼した事が承認される。

・「ゆうゆう糖尿病」について：制作を日本医療企画より印刷刷削に変更する。12月号のみ五〇〇部分の買い取り(四〇万円)と特別編集顧問として田村秋二氏を承認。

・読売新聞解説部発行の「ドキュメント時代を開いた女性たち第二集」購買協力を要請。

・山崎トヨ理事より「十代の性と健康」指導者養成講座第三回」を平成15年3月2日(日)宇都宮市役所会議室において、宇都宮市の共催と栃木県医師会・宇都宮市医師会・宇都宮教育委員会の後援で決定した旨の報告。講師の人選等は今後検討する。理事の協力も要請。

・職員賞与について：二・六ヵ月分とする。 以上 清水、久田

理事会議事録

日時：平成14年12月21日(土) 午後3時より

場所：日本女医会会議室

出席者：橋本、加藤、橋川、内潟、澤口、鹿田、田中、角田、平敷、久田、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康)、山本(織)、山本(時)、吉崎、松本 (以上19名)

欠席者：石原、青井、大坪、川田、清水、丸茂、野澤 (以上7名)

11月理事会議事録が承認される。

報告事項

一、庶務報告 久田理事 別紙どおり報告、承認される。

二、会計報告 森川理事

平成14年11月分収支別紙どおり報告、承認される。

三、各部報告

【渉外部】 角田理事

・内閣府男女共同参画局主催「男女共同参画グローバル政策対話」出席の報告

【広報部】 松井理事

・会誌173号の割付会議は12月25日に開催。

【学術部】 澤口理事

・平成14年度中にもう一度学術講演会を開催するか否か諮る。14年度内は講演会は開催しない。提出された(案)は来年度に使うことに決定。

【橋本会長より】

・「オルフェの会」と「科学技術分野における女性研究者の能力発揮分科会」出席の報告。

協議事項

一、国際女医会議の進捗状況

・基調講演(緒方貞子氏予定) 10時から11時、11時30分より皇族ご列席の元に式典その後パーティーの予定。

・1st circularをscience committeeのメンバーへ(二〇部、医科大学・看護大学・看護短期大学へ送付済み。

・既に今野信子先生(新宿支部)と山崎倫子名誉会長より一〇〇万円の寄付をいただく。

・コンGRESバッグについて：12月4日の選定会議の報告。A4の大きさ、横長、一〇センチのマチ入り、

宇都宮市役所大会議室にて開催する。

内容・講師等については本日の忘年会後に開催する小委員会に一人。

四、各賞選考委員会開催日の件

来年度理事会開催日を別紙予定表に基づき検討、承認する。各賞選考委員会は2月15日の理事会後、17時から開催する。

五、その他

①第48回定時総会について(東京都支部連合会より)

2004年に国際会議もあるので簡略化する事に決定。「お茶席」は依頼する。講演会を15時開始とした草案を次回理事会まで庶務部が作成する。

②乳房健康研究会と吉岡彌生記念館より後援依頼

名前のみの協賛とする。また、女性と未来館より「グループ広報設置の「案内」があり、今後利用する事を承認。

③平敷ナショナルコーディネータ(以下)

Dr. Margaret Maxwell、Dr. Shelley Ross からクリスマスカード、4月10日から13日までナポリで開催される国際女医学会「Medical Woman in health care and in the academies」の案内送付の報告。

④厚生労働省立ち入り検査(1月22日)について

橋本会長と会計士の長嶋先生が立

ち会う。

⑤第57回国連総会報告会の参加依頼について

1月16日に婦連会館にて開催されるので、多数の出席を要請。

以上

鹿田、久田、山本(時)

理事会議事録

日時：平成15年1月25日(土) 午後3時より

場所：日本女医学会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、内濁、大坪、川田、澤口、鹿田、清水、角田、久田、松井、村田、森川、山崎(ト)、山崎(康)、山本(時)、吉崎 (以上19名)

欠席者：青井、田中、平敷、丸茂、山本(續)、野澤、松本 (以上7名)

12月理事会議事録を承認

報告事項

一、庶務報告 山本(時)理事

別紙とおり報告、承認される。

二、会計報告 川田理事

平成14年12月分収支別紙とおり報告、承認される。

三、各部報告

【広報部】 松井理事

・会誌173号校正会議を1月15日に開催し、1月24日に完成。紙面の改良(内容・構成)を検討中。理事の協

力を要請。

【橋本会長より】

・22日の厚生労働省立ち入り検査について平成6年に提出していた「定款改正」の早急な実施を約束した。「選挙を三年とする」理由書を提出する。職員の「中退金」掛け金について、採用以来同額であるので、ベースアップに見合った額にすべきとの指摘があった。また、管理費が総事業費に占める割合を増加させないようにとの指摘もあった。

協議事項

一、2004年国際女医学会議の件

・1月15日のICSと京王プラザホテルとの話し合いの報告。

・組織委員は改選後改めて決定する。

・2nd circularは6月下旬発送予定。

・コングレスバッグについて：今回は色見本でデザイン画を検討し、グリーン、ブルー、ピンク、ベージュ、金茶色の四色の見本作成を依頼する。

二、中東女性交流の件

2月17日、25日未日する「中東女性交流」受け入れを別紙資料を参考に説明。参加者を募る。

・2月18日外務省主催の歓迎会：橋本、加藤、内濁、角田、野澤、平敷、山本(時)

・2月18日クローズドセッション：橋本、加藤、角田、平敷、山本(時)

・2月20日国立成育医療センター及

び東京女子医大訪問：橋本、石原、平敷、山崎(ト)、山崎(康)

・同日 女医学会主催歓迎会：橋本、石原、鹿田、澤口、角田、平敷、野澤、松井、山崎(ト)、山崎(康)、山本(續)

・2月21日名古屋での歓迎会：橋本、橋川、山本(續)

・2月22日名古屋でのエクスカージョン：橋本、川田、山本(續)

三、第48回定時総会(選挙も含む)の件

10時より11時半まで評議員会、12時30分より総会。講演会は総会終了後に開催。詳細の時間は選挙の有無によるので、立候補届出締め切り後に決定する。評議員会及び総会の議長、議事録署名人の推薦を要請。

次々総会(2005年・平成17年)の開催地を兵庫支部へ川田理事より打診する。

四、平成15年度事業計画案及び予算案の件

次回理事会までに計画案・予算案を作成し、会計部へ提出する。

五、その他

・3月2日開催の「10代の性と健康」指導者養成講座第3回へ多数の出席を要請。

副会長(庶務部担当) 石原

鹿田、清水、久田、山本(時)

集記 編後

「千と千尋の神隠し」がアカデミー賞を獲得した。その喜びも、イラク戦争の厳しさに消されてしまいう中で編集が終った。戦争もハイテク、生活もIT化と科学技術の進歩は目覚ましい。本年誕生の鉄腕アトムには及ばないが精巧なロボットが広く応用されてきている。しかし医療・福祉の世界は最終的に人だ。診療報酬改定に続く4月実施の三割負担、介護報酬引き下げ等国民の健康を守る分野が、単に歳出削減しやすい領域としか認識されていないのではないかと。それでは困る。謎の肺炎、重症急性呼吸器症候群は瞬時に世界全域に広まっている。命を守る事の重要性を関係機関に再認識してもらうために女医学会の役割は大きい。(松井)

日本女医学会誌

第174号

平成15年4月25日発行

編集人 大坪公子

発行人 橋本葉子

制作 橋本剛出版

発行所 社団法人 日本女医学会

東京都渋谷区渋谷2-8-7

青山宮野ビル 電話 03-3498-0571

〒150-0002 FAX 03-3498-8769

http://www.jmwa.or.jp

e-mail address: office@jmwa.or.jp